

鹿児島県の植物 91 企画展「ふしぎ発見！ 葉っぱ 64」

植物担当 金本 直子

本館では、令和 8 年 7 月 4 日（土）から企画展「ふしぎ発見！ 葉っぱ 64」を開催しています。今回は、企画展では紹介しきれなかった、特徴のある葉をもつ植物を紹介します。

■ 形が変わる葉っぱ

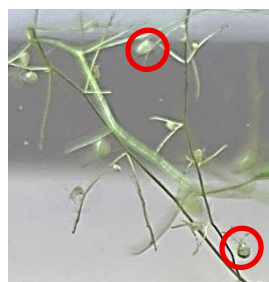
植物の中には、生育段階や環境に合わせて葉の形が変わる種があります。ヒイラギやツタなどが有名ですが、奄美大島にだけ自生する希少な植物「アマミヒイラギモチ」も生育段階で葉の形が変化します。和名に「ヒイラギ」とついていますが、モクセイ科のヒイラギとはまったく違うモチノキ科の仲間です。ヒイラギの葉に似ていることから和名がつけられました。

この植物は、若木につく葉にはトゲがありますが、成木にはトゲのない葉がつくという特徴があります。奄美大島の湯湾岳のように湿った常緑樹林の林床で育ち、雌雄異株の常緑樹で、環境省の絶滅危惧 I A 類に指定されています。



アマミヒイラギモチ（モクセイ科）の若木の葉（上）、成木の葉と雄花（下）

生物を吸い込んで捕らえます。しかし、生育地の減少により個体数は減少傾向にあり、現在は環境省の絶滅危惧 II 類に指定されています。



ヒルムシロの水中葉（右上） ミカワタヌキモ（タヌキモ科）、赤丸は捕虫葉
ミカワタヌキモ（左下）

■ 撥水性の高い葉っぱ

ハスの葉の高い撥水性は、その英語名にちなみ「ロータス効果」と呼ばれています。ハス以外にも高い撥水性を持つ植物があります。例えばサトイモは、インドやマレーシア原産のサトイモ科の植物で、芋や葉柄を食用にする作物として本県でも栽培されています。写真を撮影した日は桜島の火山灰が降りましたが、水をかけると火山灰は水とともに流れ落ちました。ロータス効果のような高い撥水性は、葉を水分や汚れから守り、弱ったり病気になったりするのを防ぐ効果があると考えられています。



サトイモ（サトイモ科）

葉の表面に落ちた水が水滴になる様子

■ 袋状の葉っぱをもつ食虫植物

食虫植物は虫を捕らえ消化して栄養を吸収するために、特殊な形に変化した「捕虫葉」を持っています。企画展では、食虫植物としてハエトリソウとモウセンゴケの 2 種を紹介していますが、企画展内のヒルムシロを展示している水槽内でもう 1 種を観察することができます。「ミカワタヌキモ（イトタヌキモ）」という植物で、どうやらヒルムシロに付着していたようです。タヌキモ科に属する水生植物で、県内の湿地やため池にも自生しており、袋状の捕虫葉を使ってミジンコなどの微小な水中

企画展では、64 種の植物を通して葉っぱの「ふしぎ」を紹介しています。どうぞお越しください。